

EUアニマルウェルフェア畜産への 歴史的変革を聞く

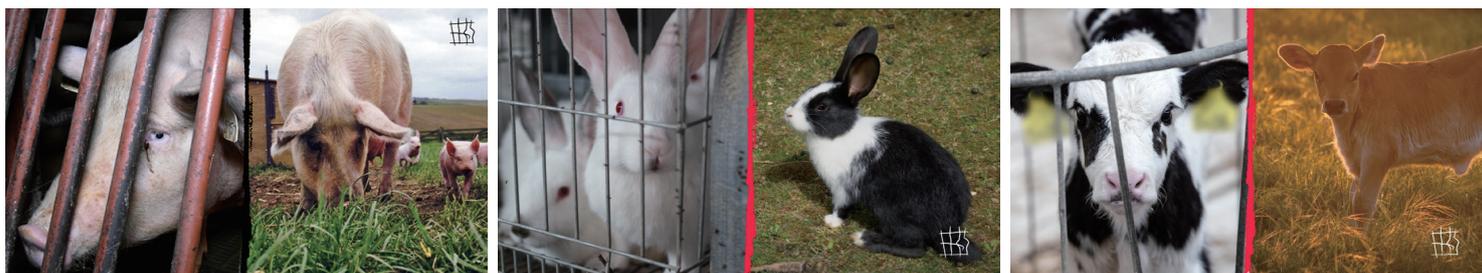


6/30

FRI 18:00-20:00

登壇者 オルガ・キコウ博士 (Dr. Olga Kikou)
Compassion in World Farming EU 代表
登壇者紹介 植木 美希 教授 日本獣医生命科学大学
開催日時 2023年6月30日(金)
日本時間 18:00-20:00
開催方法 Zoom ウェビナー
言語 日本語・英語(2言語で聴講可)
参加費用 無料
参加方法  peatix よりお申し込みください
<https://awfcj-endthecageage.peatix.com>
主催 アニマルウェルフェアフードコミュニティジャパン
<https://awfc.jp/>
お問い合わせ awfcj.info@gmail.com

EUの“End the Cage Age”を知る — 市民の声で畜産はどう変わるのか —



日本はどうするのか一緒に考えませんか？

21世紀EU畜産の大きな転換点

ITの普及、AIの進化、DX、電気自動車への移行、脱炭素など、21世紀は目まぐるしい変化の時代を迎えています。EUでは、畜産においても一世代に一度経験するかしらないと言われる大きな改革が進められています。

“End the Cage Age” 欧州市民の支持

その象徴が“End the Cage Age”という欧州市民イニシアティブ(European Citizens' Initiative)の成功です。欧州市民イニシアティブ(ECI)は、市民の声をEUの政策に反映できるように始められた制度です。EU加盟国のうち7ヶ国以上で有効投票の合計100万人以上の賛成を得ると、EU委員会に対して立法を提案することができます。家畜を「残酷で不必要な」ケージに閉じ込める時代を終わりにしようという

“End the Cage Age”は、2018年9月11日から2019年9月11日までの1年間に規定を遥かに超える140万人の有効投票を獲得しました。

EU家畜のケージを撤廃へ

これを受けて2021年6月30日、EU委員会は家畜のケージ使用をEU全体で段階的に撤廃するという歴史的な協約をしました。保健・食品安全総局委員のステラ・キリアキデス氏は次のように述べています。「私たちの約束は明確です。(欧州グリーンディール政策の食と農部門)Farm to Fork戦略の政策の一つとして、家畜のケージ使用を段階的に撤廃し、より持続可能な農業とフードシステムを実現します。」2023年中にEU委員会は立法案を提出し、2027年からEU全土でケージの段階的な撤廃と最終的な禁止に向けて進めています。まさに畜産革命といえ

る動きですが、日本では何故か報道さえされていません。EUで現在進行形で起きている畜産革命を日本で伝えることを目的の一つとして本企画を開催します。

CIWF EU代表 オルガ・キコウ博士に聞く



End the Cage Ageを成功に導いた国際NGO Compassion in World Farming EU代表のオルガ・キコウ博士(Dr. Olga Kikou)に登壇いただきます。2018年から1年にわたるキャンペーンはどのように進められたのか。ケージの撤廃という大きな変革がEU市民の大きな支持を受けた背景はどのようなものか。2023年中にEU委員会による立法案の作成に向けて、現在はどのような状況か。End the Cage AgeのECI成功の背景と現在の状況を詳しく伺います。

※“End the Cage Age”では下記を禁止する立法の提案をEU委員会に求めています。

- ・ケージ(採卵鶏、ウサギ、卵用雌鶏、肉用種鶏、卵用種鶏、ウズラ、フォアグラ用アヒルやガチョウ)
- ・母豚用の分娩クレート
- ・母豚のストール(まだ禁止されていないところでは)
- ・乳用の子牛を単独飼育する小屋(まだ禁止されていないところでは)